

# 生涯研修のご案内

香川県保険医協会・歯科技工士会 コラボセミナー

## 松香芳三先生

### 長期間機能する補綴装置の装着方法

(徳島大学大学院医歯薬学研究部  
顎機能咬合再建学分野 教授)



#### 略歴

1988年 岡山大学歯学部卒業  
1992年 岡山大学大学院終了  
(博士(歯学))  
1992年 岡山大学助手  
1996-1998年 UCLAレジデント  
1997年 岡山大学講師  
1999年 UCLA研究員  
2002年 UCLA助教授  
2005年 岡山大学助教授・  
准教授  
2012年 徳島大学教授

我々歯科医師は日常的にクラウンブリッジを製作し、装着しています。多くの先生方が感じられているのですが、クラウンブリッジの製作では、その歯に対して再治療による製作が多いようです。すなわち、クラウンブリッジを当該歯に対して2回以上製作している状況です。クラウンブリッジを当該歯に対して2回以上製作することは、一度製作したクラウンブリッジに問題が生じ、再治療に陥っていることを示しています。このように、歯科の日常臨床は再治療の連続であると言えますが、なぜクラウンブリッジの再治療を防ぐことができないのでしょうか？再治療の最大の原因は、う蝕と歯周病などの細菌感染であると考えられますので、細菌感染によるクラウンブリッジの再製作を減少させることを我々歯科医師は考えていかなければなりません。

今回の講演におきましては、再治療を予防する、長期間機能する補綴装置の装着方法に関して話を進めたいと希望しております。また、再治療時にも歯のダメージが少ないブリッジや長期間機能する支台築造に関しても触れたいと考えております。

今回の講演が先生方の診療に役立つことを希望しております。

## 鴨居浩平先生

### 再製作がなく、調整量も少ない補綴装置を目指して

(徳島大学病院医療技術部歯科医療技術部門技工室)



#### 略歴

2010年3月 広島大学歯学部口腔保健  
学科口腔保健工学専攻 卒業  
2010年4月 徳島大学病院診療支援  
部歯科医療技術部門技工室 入職  
2013年4月 徳島県歯科技工士会理  
事 就任  
2016年9月 日本歯科技工学会  
専門歯科技工士 認定  
2017年9月 日本口腔顎顔面技工  
学会理事 就任

近年、急速な歯科業界のデジタル化と口腔内スキャナーの普及により、石膏模型を製作することなく、補綴装置を完成させる技術が確立されてきている。従来の治療で使用していた材料の精度誤差を無視することができるため、口腔内での調整量が限りなく少ない補綴装置を製作することが期待されている。しかし口腔内スキャナーの普及はまだ始まったばかりで、日々の臨床の多くは、未だ従来の治療法で行われている先生方が多いと思う。

一方で、使用する材料の特性に合った作業を行わなければ、精度の低い補綴装置につながることも考えられる。そこで今回の講演では、従来の治療法で使用される材料の適切な扱い方や、材料特性を解説した上で、精密な補綴装置に繋がる術を製作面から考えていければと思う。

また、2020年6月よりチタン全部铸造冠が保険収載された。20数年前に歯科においても注目されたチタンであるが、生体親和性に優れているという良いイメージの反面、铸造や研磨が困難であるという悪いイメージが定着していると感じる。今回短い時間ではあるが、チタン材料の特性や取扱い方についても解説することで、チタンの補綴装置としての可能性を再考できればと思う。

座長 綾坂則夫先生 (坂出市開業)



#### 記

- 日時 2021年10月31日(日) 10:00~15:30 WEB併用
- 会場 ホテルマリナパレスさぬき(高松市福岡町2-3-4 無料駐車場あり)
- 参加費 無料
- 定員 60名(先着順)